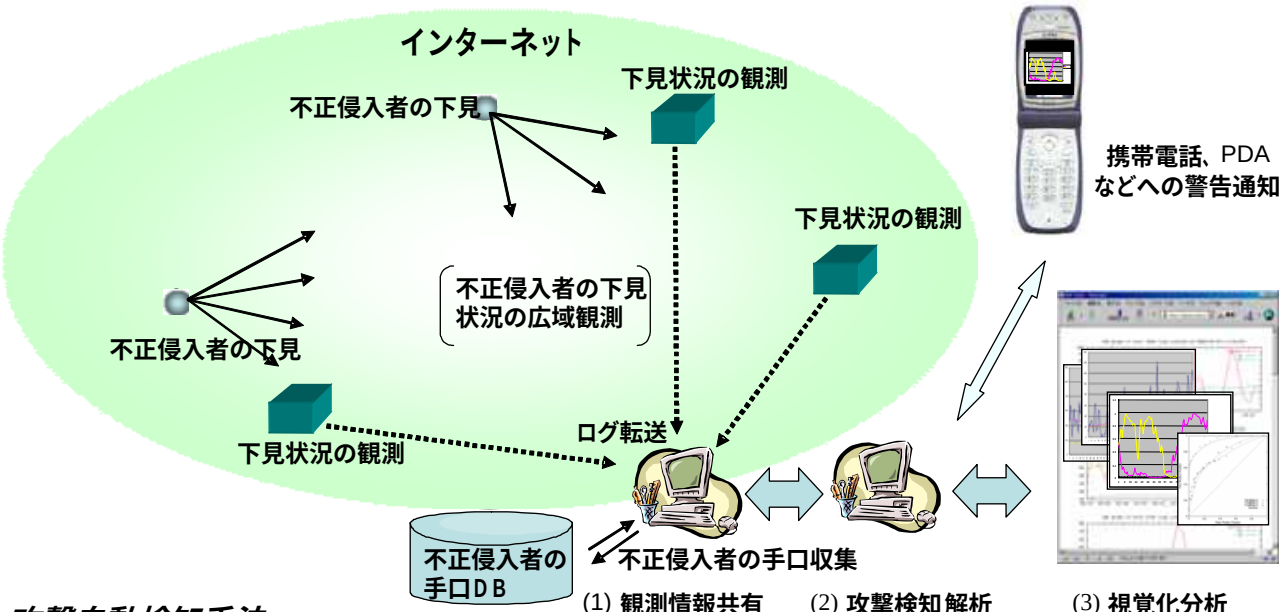
インターネット広域観測による次世代攻撃検知に関する研究開発

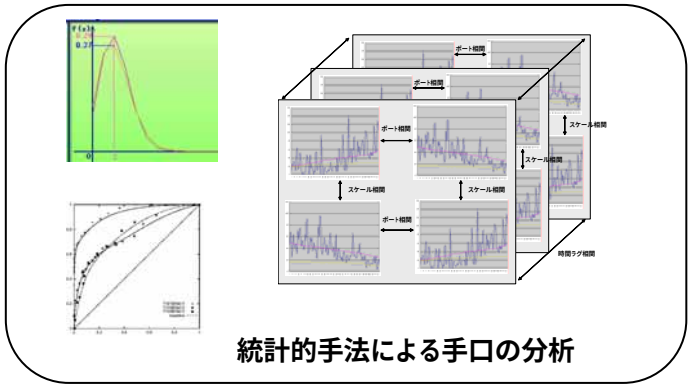
研究目的

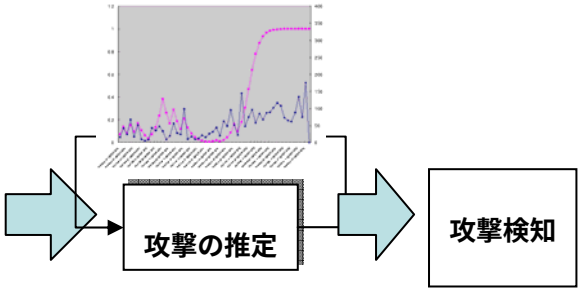
不正侵入者等がインターネット上のサーバーを攻撃する場合、あらかじめ、サーバーが防御されているかどうか、抜け穴（セキュリティホール）がないかどうかなどの下見を行い、防御されていないサーバーや抜け穴のあるサーバーに的を絞ってから攻撃を開始する。

本研究開発は、不正侵入者等が行う下見の状況を広域的に観測し、その手口を統計的に分析することにより、攻撃を事前に検知するとともに、攻撃を受ける前に対策を施すための技術を研究開発する。



攻撃自動検知手法





研究成果の社会的意義

- **インターネット上の被害の回避**
- **インターネットおよびその上の情報システムの安定性の向上**

社会への波及効果

- **観測データ、分析データの標準化によるインターネット攻撃分析研究の活性化および人材育成**
- **インターネット観測による攻撃防御ソフトウェアの新規市場創出**
- **セキュリティソフトウェア市場における日本の国際競争力の向上**